



「うまく積み上げられるかな」

10月2日～7日に行われた2016弟子屈町木育週間での1コマです。町林業多目的センターに用意されたのは、たくさん
の木製のおもちゃや木に関する絵本など。訪れた子どもたちは夢中で遊び、木とのふれあいを楽しみました。
(関連記事21ページ)

Public relations magazine

2016.11 No.747

てしかが

主な内容

- 障害者手帳などで受けられるサービス…②
- ご存じですか 放課後児童クラブ…⑥
- 乳児養育支援事業のご案内…⑦
- 協力隊通信…⑧
- ご利用ください 空き家バンク・人財バンク…⑧
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑫

むかしむか史 (313)

てしかが歴史写真館¹⁸⁷



摩周湖での透明度調査 手にしているのが透明度板

シンプルな高感度センサー

「霧」と並んで摩周湖の代名詞を担うキーワードが「透明度」です。1931(昭和6)年に記録された41.6メートルは、現在までに破られていない湖沼透明度の世界記録です。

水の清濁を示す指標を測定する使用器具と方法は、とても簡単。ロープにつないだ直径30センチほどの白い円盤を水中に沈めるだけです。まず、見えなくなった深さを記録します。その後、引き上げて再び見えた深さを記録し、その中間の値が透明度となります。考案されてから150年以上経つこの透明度板は、誰でも扱うことができ、誤差が少ないという利点があります。

流出入河川がなく、非常に険しい崖に囲まれているという自然環境に加え、国立公園の特別保護区域のため立ち入りが厳しく制限されている、人工物がないことにより、周辺からの人為的汚染を受けにくく、もし影響を受けたとしても小さな変化を見つけやすい湖とされます。透明度は湖内の生物や微小な浮遊粒子、気象条件でも変化するとみられていますが、温度変動に伴う湖水の循環メカニズムも解き明かされつつあります。

肉眼では見えない対象物の収集・分析を行うために、機器は次々と精度を上げ、わずかな測定値をデジタル表示します。それらはいずれも、透明度が告げるメッセージを読み取るための1つのツールとなります。100年にわたり、定期的に続けられてきた調査研究結果は、地球規模の環境変化を監視する役割も担ってきました。

観光地として訪れた人々を魅了する摩周湖の、もう一つの横顔です。

てしかが郷土研究会(斎藤)

2016.11
てしかが

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています